

栃木県

書道連盟

会報

第35号

栃木県書道連盟
 会員数現在748名
 会長松本宜響
 〒321-0954
 宇都宮市本今泉2-3-6
 TEL (028) 634-8571
 編集事務局
 振替口座 00340-3-9017
 〒329-1225
 塩谷郡高根沢町石末2857-7
 印刷 松井ビ・テ・オ・印刷

書の心 つなげ未来へ 栃木から！



栃木県書道連盟

会長 松本 宜響

標題は創立70周年を記念して募集した
 キャッチコピーの最優秀作品です。

古い人間には「キャッチコピー」といっ
 てもピンとこないところがありました
 が、北は北海道、南は九州から一千点を
 越える応募がありました。

「物よりも 添えたカードに うつと
 りと」

「凛として心豊かに書の道へ」

「しなやかに心を映す墨の跡」

「ひびきあう心を伝える書の力」

「一筆に宿る魂 和の誇り」

「毛筆であなたの魅力また一つ」

さて、平成28年の連盟会員展が4月22
 日から4日間開催されました。今回の出
 品は高校生も含めて380点、作品も例
 年の如く篆刻、刻字、詩文書、仮名、大
 字書、漢字書など多岐にわたり、言葉や
 文字、墨筆紙の用具用材を生かしてそれ
 ぞれの個性が表現されていました。各人
 各様の多彩な作品群を頼もしく鑑賞させ
 ていただきました。そしてキャッチコ
 ピーの言う「書の心」も一樣ではないの
 だろうと思ったことでした。

ところで本連盟もいよいよ創立70周年
 を迎えます。一口に70周年とは言いま
 が、ここまで来ることができたのは歴代
 会長をはじめ役員諸先生方の並々ならぬ
 ご苦勞があったからに他なりません。

七海会長の『栃木県書道40年のあゆみ』
 を開けば昭和22年連盟結成発起人会の模
 様や熱気に満ちた連盟初期の状況が生
 生きと伝わってきます。50周年記念誌会
 員図録作品はレベルも高く余裕のある時
 代を感じます。そして60周年記念誌から
 も書作に真剣に取り組む会員諸氏の姿が
 目に浮かびます。70年の重みを実感しま
 す。

「書の心」は連盟に脈々と伝わって
 います。そして会員一人一人に受け継がれ
 更に深化しようとしています。規約には
 「会員相互の研鑽と親睦に努めながら、
 書道の普及発展を図る」とありますが、
 連盟の良さは「書の心」にかける思いが
 たとえ違ったとしても互いに刺激研鑽し
 あいながら相互に高めあっている所にあ
 ります。

創立70周年という節目にあたり、会長
 という大役をいただきましたが、もとよ
 り浅学非才、皆様のご指導ご協力がなけ
 れば何事も成就できません。私の務めは
 赤澤前会長さんをご準備された70周年の
 諸行事を遂行することと心得ています。

最後にチョッピリ贅沢な夢を一つ。
 70周年行事成就の暁には皆さんとも
 に！

「先人の揮毫を肴に美酒を飲む」

平成28年6月23日

平成28年度 書道連盟
通常総会開催される

常任理事 川島 汀蒲

平成28年度総会が4月24日（日）栃木
 県総合文化センター第一会議室にて開催
 された。

赤澤会長の挨拶後、議長に神長雪華氏
 （矢板）を選出し、議事に入る。

第1号議案 平成27年度事業報告及び収
 支決算報告 監査報告

第2号議案 平成28年度事業計画案及び
 収支予算案

第3号議案 平成28年度役員改選

それぞれの議案について熱心な討議が
 行われ、原案通り満場一致で承認された。
 その後、「日本の書道文化」ユネスコ
 無形文化遺産登録運動についての説明が
 あり、続いてキャッチコピー・ロゴマー
 ク受賞者表彰、第54回会員展連盟賞の授
 与が行われた。更に栃木県文化奨励賞を
 受賞した塚原秀巖氏に花束が贈呈され
 た。最後に新役員の紹介後、会長、副会
 長を退任された赤澤豊氏・村田幽香氏に
 感謝の意を込め花束を贈呈し、総会は和
 やかに終了となった。



平成 28 年度 栃木県書道連盟 役員名簿

番号	役職名	地区名	専門部	姓 号	番号	役職名	地区名	専門部	姓 号
1	名誉顧問	大田原		酒井真沙	53	理事	宇都宮	総務部	日賀野琢
2	(新)名誉顧問	宇都宮		久津美碧洋	54	理事	宇都宮	書展部	大類天鶴
3	常任顧問	芳賀		重原聖鳥	55	理事	宇都宮	研修部	櫻井敬朔
4	常任顧問	宇都宮		中野永峰	56	理事	宇都宮	総務部	下司香雪
5	常任顧問	塩谷		鈴木源泉	57	理事	宇都宮	研修部	井上都洞
6	常任顧問	矢板		柿沼翠流	58	理事	宇都宮	研修部	萩野谷香華
7	(新)常任顧問	宇都宮		赤澤 豊	59	理事	宇都宮	総務部	橋本竹泉
8	顧問	宇都宮		木曾梅邦	60	理事	宇都宮	研修部	星 司光
9	(新)顧問	大田原		村田幽香	61	理事	宇都宮	総務部	鶴見晨蒲
10	参与	宇都宮		生田目史雲	62	(新)理事	宇都宮	事務局員	五月女章子
11	参与	宇都宮		高梨峰鶴	63	理事	足利	書展部副部長	阿部祥廬
12	参与	那須塩原		津久井悠山	64	理事	足利	総務部	上村千嶂
13	参与	栃木		高際翠邦	65	理事	栃木	書展部	小林桂華
14	参与	日光		人見翠苑	66	理事	栃木	研修部	小林香風
15	参与	宇都宮		荒井雅子	67	理事	栃木	研修部	嶋田周
16	参与	小山		上野鶴陽	68	理事	栃木	書展部	白井薫苑
17	参与	宇都宮		斎藤美与子	69	(新)理事	栃木	書展部	加茂珠香
18	参与	栃木		石川善克	70	(新)理事	佐野	総務部	大竹汎泉
19	参与	栃木		腰塚藤翠	71	理事	佐野	研修部	柳田昂雲
20	参与	宇都宮		諏訪公道	72	理事	鹿沼	書展部	渡辺司寶
21	参与	宇都宮		中山志峰	73	理事	日光	書展部副部長	皆川桂花
22	参与	上三川		小久保汗顔	74	理事	日光	研修部副部長	石戸松波
23	参与	宇都宮		谷古宇栖洞	75	理事	小山	総務部	倉持玄風
24	参与	芳賀		刑部素心	76	理事	小山	総務部副部長	松本純美代
25	参与	宇都宮		大谷津紫水	77	理事	真岡	事務局員	大塚雅恵
26	参与	宇都宮		山田雅子	78	理事	大田原	書展部	酒井導子
27	参与	宇都宮		吉田竹溪	79	理事	大田原	事務局会計	益子宵林
28	参与	栃木		田中暁亭	80	(新)理事	矢板	書展部	神長雪華
29	参与	さくら		鈴木正倫	81	理事	那須塩原	書展部	高橋金舟
30	参与	下都賀		高橋瑞峰	82	(新)理事	那須塩原	事務局次長	深川耕心
31	参与	足利		漆原常石	83	(新)理事	さくら	書展部	平石春水
32	参与	塩谷		鶴見芳花	84	理事	那須烏山	研修部副部長	斎藤裕一
33	参与	塩谷		阿久津天舞	85	理事	下野	研修部	井上幸枝
34	参与	佐野		中村廬山	86	理事	上三川	総務部	小形則江
35	参与	鹿沼		兼目悠久	87	理事	芳賀	書展部	大畑耕雲
36	参与	大田原		長嶋石城	88	理事	下都賀	総務部	竹澤久子
37	参与	下野		生沼冬情	89	理事	塩谷	研修部	加藤栄舟
38	参与	芳賀		小林正韻	90	理事	塩谷	書展部	山本紅葉
39	参与	下野		伊澤小園	91	監事	宇都宮		細小路洸玉
40	(新)参与	さくら		小森聖子	92	監事	那須塩原		大場山東
41	(新)参与	那須塩原		笹沼映子	事務局				
42	(新)参与	上三川		神山紫香	番号	役職名	地区名	専門部	姓 号
43	会長	宇都宮		松本宜響	1	常任理事	塩谷	事務局長	五江渚霊水
41	副会長	下野		大浦星齋	2	常任理事	宇都宮	事務局次長	篠崎無閑
42	副会長	宇都宮		癸生川天遊	3	理事	那須塩原	事務局次長	深川耕心
43	副会長	宇都宮		村松太子	4	理事	大田原	事務局会計	益子宵林
44	常任理事	塩谷	事務局長	五江渚霊水	5	理事	真岡	事務局員	大塚雅恵
45	常任理事	足利	書展部長	関口鶴情	6	(新)理事	宇都宮	事務局員	五月女章子
46	常任理事	鹿沼	研修部長	塚原秀巖	7		宇都宮	事務局員	山本響花
47	常任理事	塩谷	総務部長	斎藤一吼	8		宇都宮	(新)事務局員	平井子晴
48	常任理事	栃木	書展部担当	川島汀蒲	9		下野	事務局員	柏崎麗泉
49	常任理事	矢板	研修部担当	磯 翠茗	10		下野	事務局員	鈴木蓮徑
50	常任理事	宇都宮	総務部担当	篠崎無閑	11		小山	事務局員	坂本典子
51	理事	宇都宮	総務部	安藤磨紀	12		栃木	(新)事務局員	佐山春翠
52	理事	宇都宮	総務部副部長	澤田 寛					

各部の方針と活動内容

総務部

部長 齋藤 一吼

総務部の今年のメンバーは副会長総務担当・村松太子、部長・齋藤一吼、常任理事総務部担当・篠崎無関、副部長・澤田寛、松本純美代、部員・安藤磨紀、上村千嶂、大竹汎泉、日賀野琢、下司香雪、竹澤久子、小形則江、橋本竹泉、鶴見晨蒲、倉持玄風の15名です。昨年度は村松太子先生が部長をされていましたので、活動も順調かつ盛大でした。本年度はその活動を受け継ぎ、地道に活動を続けていきたいと思っています。また、本年度は70周年の記念行事があり、記念誌の発行、会員名簿の作成、記念式典、祝賀会と大忙しの一年となりますが、皆様の協力を得ながら、伝統ある栃木県書道連盟70周年を迎えられるよう、総務部一丸となって頑張りたいと思います。



研修部

部長 塚原 秀巖



研修部の主な活動は、講演会、実技講習会、研修旅行の運営です。会員のために有意義な講習や研修旅行を企画していきたいと考えています。皆様からのご意見やご要望をお寄せいただき、多くの参加者を募りたいと思います。

今年のメンバーは、部長・塚原秀巖、副部長・斎藤裕一、石戸松波、常任理事研修部担当・磯翠茗、部員・井上都洞、井上幸枝、加藤榮舟、小林香風、櫻井敬朔、嶋田周、萩野谷香華、星司光、柳田昂雲、の13名です。

活動内容

◎実技講習会

◇日時 平成28年9月18日(日)

14時～16時30分

◇場所 コンセーレ(栃木県青年会館)

◇講師 常任理事6名によるジャンル別講習

◎研修旅行

◇日時 平成28年10月2日(日)

◇場所 那須国造碑、烏山方面

◎記念講演会

◇日時 平成29年1月8日(日)

15時30分～17時

◇場所 ホテル東日本宇都宮

◇講師 高木厚人先生

◇演題 かな書の魅力について

平成28年9月18日(日) 14時～17時、コンセーレ(栃木県青年会館)にて実技講習会を開催します。

今回は常任理事6名によるジャンル別の実技講習を3年ぶりに実施します。

ジャンルは楷書、行書、草書(大字書)、隸書、仮名、漢字仮名交じりの書の6部門で、各班に分かれての実技講習になります。書道用具を持参して参加してください。

今回は希望する部門を第3希望まで

で記入の上申し込んでください。人数を調整しホームページにて班別のID番号を発表する予定です。

書展部

部長 関口 鶴情

今年の書展部はベテランを中心として、新たに、神長雪華、平石春水、加茂珠香の3氏を加えて、より一段と充実度を増しています。これから明年1月開催の創立70周年記念会員展に向けて、記念展にふさわしい内容にすべく、部員諸氏の力を結集して取り組みたいと念じております。更には、事務局との連携を密にして、出品者の増加、作品レベルの向上、爽やかで和やかな記念展を目指したいと思っております。

◆行事予定

◎創立70周年記念会員展

◇日時 平成29年1月6日(金)

9日(月)

◇場所 栃木県総合文化センター

第1、2、3、4(A・B・C)

全ギヤラリー

※8日(日) 講評会

10時30分～12時

会員の皆様にも、搬入、展示、搬出には努めてご協力をお願い申し上げます。

平成28年度

第54回栃木県書道連盟会員展 Ⅱ 意義あるギャラリートーク Ⅱ

理事 渡辺 司寶

清々しい天候の中、第54回栃木県書道連盟会員展が、4月22日(金)

に對する想いや感じ取ったものを話したい。」

(25日)月、栃木県総合文化センターに於いて開催されました。今年

○齋藤一吼先生談「3点の選出は無理なほど全体にレベルが高い。」

は、県書道連盟会員367点に加え、平成27年度高校生顕彰受賞者の半紙

○癸生川天遊先生談「好みの作品を選出しました。」

作品14点が展示され、若さ溢れ、尚かつ完成度の高い作品は、好評を博し充実した会員展となりました。4

5人の先生方がそれぞれ選ばれた3点、計15名の作品を作者の指針を含めて、温かい講評が行われました。

月24日(日)10時から、大類天鶴理事の進行により、ギャラリートークが実施されました。最初に赤澤豊会長より「パネラーの5名の先生は書道に洗練されたプロの先生です。積極的に質問して70周年の盛り上がり

選ばれた方は、橋本竹泉氏、酒井導子氏、皆川桂花氏、笹沼映子氏、神長雪華氏、斎藤和子氏、嶋田香紗氏、登坂時子氏、中原紅驥氏、花塚香陽氏、人見祐子氏、福岡俊介氏、大輪無涯氏、岡村白秋氏、小野悦子氏

に期待したい」との挨拶があり、5名の先生方を紹介されました。

その後、連盟賞を受賞された3名の方の講評も行われました。

○塚原秀巖先生談「専門は漢字仮名交じりだが、分野に拘わらず選出しました」

○大竹汎泉氏「洗練されている。章法の確かさ、運筆にゆとり。」

○関口鶴情先生談「レベルアップした素晴らしい作品群」

○山本響花氏「一点集中法にポイント有り。表具の配慮も見事。」

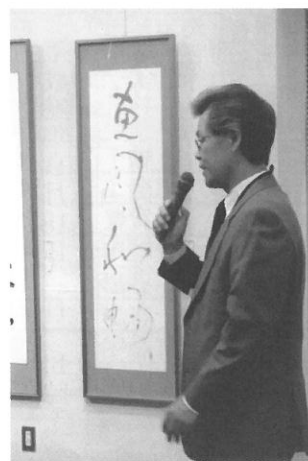
○村松太子先生談「力作揃い、作品

○五月女章子氏「下部に明るさがあ

る構成が良い。墨色に心遣いを。」
最後に大浦星齋副会長より、講評会は作品を通して心構えを語っている。一人一人が精進しようとの挨拶

で終了しました。
搬入、陳列、受付、搬出等、ご協力、ご尽力戴きました皆様に深く感謝いたします。

《会場風景》



回展
54員
第会

山本・五月女・大竹の三氏
「連盟賞に輝く」

連盟賞を戴いて

山本 響花

この度は、栄えある連盟賞を戴き誠にありがとうございました。

今回の作品は、「書のある生活空間」を目指し書き上げました。私の所属します朴豊会（4月に開催）の書展テーマでもありました。並行して作品を書いて行くなかで、色々な紙で試し、墨の濃さも変え試行錯誤しながら仕上がった作品でした。毎回言葉選びも苦労しますが、前々から書きたいと思っていた言葉で賞を戴けた事は本当にうれしい限りです。

今回の作品作りでは、表装との兼ね合いの大切さも勉強させていただきました。まだまだ学ぶことばかりです。この賞に恥じぬように今後も精進してまいりますので、諸先生、諸先輩をはじめ書友の皆様これからご指導よろしくお願い申し上げます。

第54回会員展連盟賞を受賞して

五月女 章子

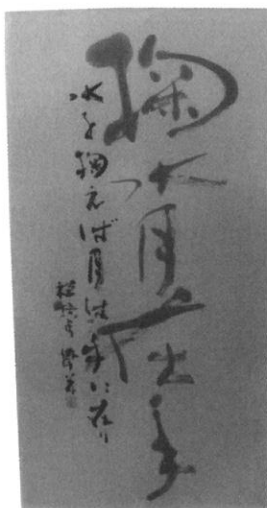
この度は、名誉ある連盟賞をいただきまして誠にありがとうございました。喜びと共に、大変身の引き締まる思いでいっぱいです。これもひとえに選んでくださった審査員の先生方、これまでご指導くださった師匠をはじめ、一緒に活動している仲間や支えてくれている周囲の全ての人のお陰だと心より感謝申し上げます。書活動は決して一人だけではなし得ません。多くの書を通じた出逢いが私をここまで導いてくれました。その出逢いは私の人生を大いに豊かにもしてくれています。書に囲まれた充実した日々に感謝しつつ、今後とも益々精進し、受賞した自覚と責任を持って書に励んでいきたいと思っています。

緩急ある線を求めて

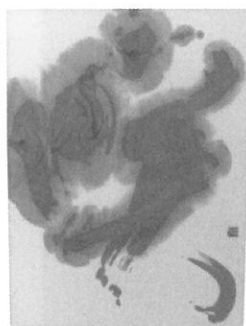
大竹 汎泉

この度は第54回栃木県書道連盟展におきまして、栄えある連盟賞を戴き誠にありがとうございました。今回の条幅の作品は日頃取り組んでいる楷書ですと、配置に無理があり私の書き方ではどうしても硬い表現になり深みが出ないので行草書にて試みました。緩急があり、柔らかみがあり且つ深みがある、流麗な線を表

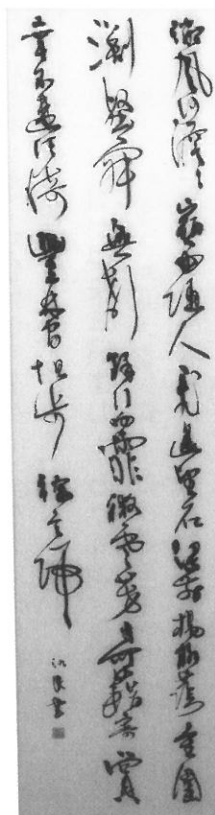
現したく明清古詩の中から王漁洋の詩、50字を選択し、潤渇及び流麗な線を試行錯誤、試みました。思いもかけず、連盟賞という結果に驚きと喜びでいっぱいです。ありがとうございました。深淵なる書の道を私なりに牛歩の如く進んで行きます。なにとぞこれからも諸先生方のご指導、叱咤激励よろしくお願い申し上げます。末筆となりましたが、栃木県書道連盟の益々のご発展心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



山本 響花



五月女 章子



大竹 汎泉

平成28年度 栃木県書道連盟講演会

理事 井上 都洞

日時 平成28年4月24日(日) 午後3時～4時30分
会場 栃木県総合文化センター 第1会議室
講師 栃木県書道連盟会長 赤澤 豊
演題 「七十年を振り返る」

4月24日(日) 総会も無事終了し
赤澤会長が退任、新会長に松本宜響
先生が就任されました。

総会後、赤澤豊前会長による講演
会「七十年を振り返る」が行われま
した。県総合文化センターが定員いっ
ぱいの人で大盛況になり、村田幽香
前副会長が開会の言葉を述べて始ま
りました。当連盟は昭和22年の11月
に結成。初代会長に齋藤松雲先生が
就任されたとのこと。その翌年に教
育会館で出品点数500点、内書初
展230点を集め展覧会を開催、県
書道連盟会員展の第1回展とは違っ
たようです。この時はまだ赤澤先生
はこの世に産声を上げていなかった
とのこと。

第1回の県書道連盟
展は、その後昭和37年
8月に栃木会館で45点
の作品で開催、会員数
130余人だったよう
です。その後平成4年
より総合文化センター
で開催し今日に至って
いるとのこと。

プロジェクトによる
スライドを提示され
ながら説明解説され、
栃木県ゆかりの先生方、
豊道春海先生・鈴木鳴
鐸先生等の数多くの先
生方のお写真を見なが
ら思い出などを話され
ました。また豊道春海



先生は長嶋石城先生が、相澤春洋先生は兼目悠久先生、宇留野清華先生は荒井雅子先生が各先生方の人となりや思い出をお話しして下さいました。

私は書道連盟に入会したのもまだまだ日も浅くスライドでご紹介された先生方もほとんど知らず恥ずかしい限りではありますが、頂いた資料を見ながら覚えておきたいと思えます。

70年にわたる歳月に御尽力された先生方と共に歩み、長らく事務局長をされていたとはいえ連盟の細部にわたり調べ講演された赤澤先生には、敬意を表します。

この講演で栃木県書道連盟70周年の歴史の重さを感じることができました。連盟の益々の発展を願うばかりです。貴重なご講演をありがとうございました。

平成27年度研修旅行

宮城への研修旅行

理事 萩野谷 香華

平成27年10月11日(日)、12日(月)
参加者25名による多賀城碑、松島等
の一泊研修旅行が開催された。

11日早朝、あいにくの雨
であつたが、参加者の笑顔
を乗せてバスは出発した。

塚原研修部長代理、赤澤会
長、添乗員角田さん、ガイ
ドさんの挨拶を頂き、第一
の目的地多賀城市へと向
かった。車窓からは水田の
稲が一面黄色に色づき収穫
の刈り取りを待っている様
子を感じられた。目的地到
着前に重要文化財で昭和天
皇のご宿泊となった旧伊達
邸鍾景閣で昼食となった。

愈々、日本三古碑の多賀
城碑「歌枕の壺碑」との対
面である。まずは多賀城跡
を特別案内人に導かれ見学
した。多賀城は8世紀前半
から10世紀中ごろまで存続

し、この間3回建て替えがおこな
れたが現存はしない。それでもその
当時の多賀城を中心とした大都市を
目に浮かべてみた。

多賀城碑では雨も上がり、覆屋の
鍵が開けられたが、驚いたことに中
に大きな蜂。残念ながら中に入って
みることはできなかった。
碑には創造や修造の内容が記さ



れ、他の文献にない貴重な
情報を伝えているというこ
とだ。その後、政庁跡等を
見学し、多賀城を後にした。

続いては被災地石巻市で
ボランティアガイドの方に
体験談を踏まえた説明を頂
いた。震災後4年が経過し
瓦礫や崩壊した家屋はない
が、全長90メートルの巨大
市場ができ、震災直後から
の復興に力強さを感じた。
そして今後も被災者の皆さ
んには望みを持って明るく
進んで欲しいと祈った。

外も暗くなり宿泊の松島
海岸温泉に到着した。一息
ついて楽しい夕食宴会であ
る。その日は櫻井研修副部
長の誕生日であつたため、
みんなで祝福した。その後、一人一
言を述べることになり、独特な味の
ある宴会となり思い出に残った。

研修旅行二日目は快晴、気分も
上々でスタート。まずは五大堂、続
いて瑞巖寺、最後は松島遊覧船に
乗った。船からは心地よい海風の中、
津波を和らげた多くの小島を見た。

帰路の車中では、松本副会長がカ



ラオケ合戦により大いに盛り上げて
くださった。

到着は渋滞のため少々遅れたが、
無事終了となった。

楽しい旅行をありがとうございま
した。

第69回栃木県芸術祭書道展

— 審査総評 —

審査委員長 松本 宜響

書道部門の審査は10月26日栃木県総合文化センターにおいて7名の審査員により行われた。

審査前に運営委員も交えて審査の打ち合わせを行い、個性豊かな作品で技術の優れたものを尊重すること、また広い見地に立つて厳正かつ適切に行うことなどを確認し、午前中の鑑別審査に入った。入選数は公募総数328点の70%、230点前後を目標に行なった。

その結果各ジャンルの総出品点数とその比率は次の通りである。

入選数 223点 入選率 68%

ジャンル	出品数	入選数	入選率
漢字多字数	200	136	68%
漢字少字数	29	20	69%
漢字仮名交り文	37	25	68%
仮名	18	12	66%
篆刻	44	30	68%

審査員の総評をまとめてみると

・今回も多字数作品(漢字作品)が多く他のジャンルの応募が少ないのが惜しまれた。

・師風追隨の傾向が多くみられるのは、学びの段階では仕方ないことではあるが、作者の個性がより感じられる作品がもっと多くなることを期待したい。

・落款の位置が高すぎたり低かったり気になる作品が見られた。

・作品を、きれいなもの、整ったものという意識が強すぎて大胆さに欠け委縮した作品があった。

・全体的に平均してレベルが向上している。中には体当たりの意欲作もあり、これから益々楽しみと思える作品もあった。

次に審査員諸氏の評をまとめてみる。

芸術祭賞

・川島汀蒲「秋の葉の」(漢字仮名交り)



ゆったりとした運筆が余裕を感じさせ行の流れが自然である。表情豊かな漢字と仮名が見事なまでに調和して明るく品格の高い作品となった。

準芸術祭賞

・鈴木蓮徑「菜根譚」(漢字)

夜深く静かに独り座して心を観る。悟りにも似た境地が描写される菜根譚の二十四文字を行草体で二行に書した。熟達した運筆の中に墨の潤渇・文字の大小がごく自然に配されて明るい余裕のある佳作となった。

・平石彰男「張籍詩・秋思」(漢字)

中唐の詩人張籍詩を戦国期の文字をモチーフに二×八の画仙紙に三行書で堂々とまとめた。

唐詩を戦国期の文字で書くと、時に違和感があり、通仮・仮借など文字に精通して初めて作品になる。大変な仕事だが今後益々楽しみにしたい。

奨励賞

・小野崎啓太「返照」(少字数)

墨色が澄んだ青で立体感のある線と相俟ってとても美しい作となった。今後益々期待したい作家である。

・上村千嶂「張錫祚詩」(漢字)

章法が巧みで独特の流動感を見せている。変化に富んだ造形が見事に調和している。

・加藤翁雪「仁能善断」(篆刻)

線の切れを意識的におさえた刀法が全体の落ち着きを生み出し、安定した篆体と配置の自然さが独特の雰囲気を作り出している。

・小林香風「李賀詩・唐兒歌」(漢字)

七言絶句の内四十二字を北魏風の楷書で書いている。骨格を強くした構字で見るとに迫力・威力を感じさせる作品である。

・渋谷真璃「手塚七木の句」(漢字仮名交り)

二本の筆を合わせて書いた割れた線が俳句の内容と良くあっている。激しいタッチではあるが文字や空間を効果的に表現して美しい。

い。

・関根英春「赤」(少字数)

深い漆黒の線が大きな世界をつくっている。悠揚としておさえた運筆によって、むしろ激しく燃え上がる世界を創りあげている。

・新田祥華「区大相詩」(漢字)

右上がりのスタイルでリズムよく書き流し行間の余白が生きている。書線に温かみを感じられ落ち着きのある作である。

・坂本典子「秋の夕」(仮名)

仮名独特の多様な文字の造形美に二字三字の連綿を加え、巧みに渴筆を生かして変幻自在な美しさを醸し出している。

・平井子晴「歸自南陽」(漢字)

五言律詩四十文字を三行に配している。白を広くとり、ゆとりをもった作品である。行草の章法にリズムが加わり作品を引き立たせている。

・林 游季「囊中無一物・守和」(篆刻)

円形の朱文印で文字の配置に工夫がみられ刀法も冴えて安定した作品となった。白文印「守和」も静かなたたずまいの佳作である。



「菜根譚」鈴木蓮徑



「張籍詩・秋思」平石彰男

第69回栃木県芸術祭書道展 入選・入賞者の集い

理事 倉持 玄風

平成27年度栃木県芸術祭書道部門、入選・入賞者の集いは11月8日(日)宇都宮市内のホテルニューイタヤに於て盛大に開催されました。

入選・入賞者の皆様方の笑顔、互いに健闘を称え合う人達。捲土重来を果たし、安堵感。挑戦を続けたベテラン組。初入選の嬉しさと感激にひたっている人。それをサポートしている先輩の顔。様々な来場者の共通点は「よかったね!」。満場の拍手の中、村田幽香副会長開会の辞で始まりました。主催者挨拶は赤澤豊会長。入選・入賞者、審査員、スタッフ一同に対し労をねぎらう言葉、そして県書道連盟70周年についてなどを含めお祝いの言葉を頂きました。

次に来賓紹介、栃木県文化協会副会長・鈴木源泉様、栃木県文化協会事務局長・柿田由紀雄様、下野新聞社販売事業局長・関根文夫様、販売事業部・長谷川浩様、芸術祭協力店・

宇台額縁製作所から中田富男様、書遊松島堂から石川武様、金指表具店から金指昭一様、宇都宮キヨー和から宇高孝様をお迎えしました。来賓

を代表し栃木県文化協会副会長鈴木源泉様より「書道界が丸となって推し進めている日本書道文化ユネスコ無形文化遺産登録活動について協力をお願いしたい」とのお話。また、「書作品にはそれぞれの風景を想像させるような捉え方がヒントになる。」など深いお言葉を頂きました。次に下野新聞社・関根文夫様よりこの度の入選・入賞者皆様への温かい応援のお言葉と書道連盟の活動により諸文化の発展にも貢献して欲しい旨の祝辞を頂きました。

式は引き続き27年度審査員を務められた松本宜響先生、石川善克先生、長嶋石城先生、櫻井敬朔先生、竹澤久子先生、塚原秀巖先生、嶋田周先生が紹介されました。入選者を代表

し、釜井詔子さんへ県文化協会副会長鈴木源泉様より入選証が授与されました。次に審査委員長、松本宜響先生から審査講評を頂きました。ここで受賞者の紹介があり、代表して芸術祭賞の川島汀蒲さんが挨拶されました。常任顧問の重原聖鳥先生の元氣一杯の乾杯ご発声で祝宴となり

ました。酒豪揃いの連盟会員、料理より酒のテーブル、酒より箸のテーブル…。サブライズは受賞者全員に本年度審査員から花束のプレゼント、忘れられない思い出。楽しい時間は短く次年度への精進と希望を込めて大浦星齋副会長の三本締めで終了となりました。



栃木県書道連盟女流展

理事 笹沼 映子

最強の寒波が日本列島をすっぽりと包み込んだ最中、第29回栃木県書道連盟女流展が華やかに開幕しました。1月23日から26日まで県総合文化センター第4ギャラリーにて、力強くも繊細、多彩な作品183点が展示されました。1月24日には赤澤豊会長の温かくも今後の作品制作の道しるべとなる講評を頂きました。90名の参加者が、会長の的確な助言に熱心に耳を傾けていました。

午後は12時45分から2時30分までレストラン「ラカント」にて懇親会が開催されました。会員同志が楽しいひとときを共に分かち合い、会の発展を願いながら解散しました。

(講評文要約) 敬称略

○穂山 玉星 格段の品格有り
○荒川 美穂 紙面の収まり連綿線が自然
○石原 水蒲 芯が通って表現良し
○板橋 寿鶴 五文字バランス良し

○大嶋 静彩 隷書作品、縦横線に一層の工夫を
○大原 綾月 疎密、行間響き良し
○小野口秀麗 墨量の変化に工夫を
○柏崎 麗泉 多彩な表現見事
○亀和田郁芳 空間の処理良し
○川嶋 奈美 二文字の間隔工夫を
○菊地 清香 リズム感有り美しい
○見目 月華 凛とした線見事
○小林 恵子 響合う筆運びを
○斎藤 洋子 漢字かなのバランスに一工夫
○坂本 典子 線良く味わい深い作
○始澤 多恵 強さリズム感有り
○嶋田 香紗 すっきりとした作品
○須永 茜潮 空間の処理見事
○関谷 小雪 文字の流れに留意
○塚原 彩香 力量溢れる佳作
○鶴見 参月 書き慣れてリズム感有り、潤滑の工夫を
○手塚 秀桜 空間を取り余裕を
○寺崎 聰子 濃墨の運び方に工夫
○西脇 紫竹 潤滑の収め方うまい

○野中 林雨 白黒のバランス良い
○橋本 聖舟 古典の追求をもとに
○花塚 香陽 空間の処理、一瞬の動きの工夫
○早川 容泉 線の切れ味良し
○林 游李 構図良し、熟練作
○平石 春水 個展後の熟達した作
○防木 正子 渴筆の美の工夫を
○古橋 洋舟 ローマ字を自然体で楽に表現
○牧野 春峰 構成良く鑑賞したい

○増渕 景華 力量有り幅の広い作
○松島 美舟 強さ空間の処理良し
○松島 芳子 品有り流れに工夫を
○村上千津子 文字の流を意識
○八木澤翠葉 草稿を作り古典基に
○山田 雅子 美しく高貴な作
○米内 藤雲 伸びやかな線質良し
○和賀 幸恵 文字の安定感一工夫
○我妻 淡雅 自分の世界感を表現
○和田 芳華 迫力有り調和工夫を



宇都宮市文化協会美術展

宇都宮市文化協会

副会長兼事務局長

赤澤

豊

本連盟の宇都宮市会員は約300名です。過去、宇都宮市書道連盟を発足させたいという動向はありましたが、しかし、本連盟との距離感があまりにも近い理由から、現在は宇都宮市文化協会の書道部会の充実を図る方向で活動しています。

平成28年1月8日から12日まで、市文化会館の改修のため県総合文化センター第4ギャラリーにて、日本画・洋画・版画・書・工芸・写真部門の合同展を開催し、119点の作品を展示、来観者数約700名を数えました。10日には合同ギャラリートークを実施し、作者の作品に対する思いなどを熱心に語り合いました。同日、ワークショップ「あなたも今日は陶芸家」も行い、幅広い芸術交流会となり大盛会でした。次回も合同展を開催予定、入会希望者大歓迎します。



大田原市書道連盟

会長 長嶋石城

平成15年4月、県書道連盟会員を母体として、市内在住の愛好家も参加し発足。現在78名の会員が、書を通じて大田原市の文化向上発展に寄与するため、大田原市書道連盟展を開催し、相互の研鑽と親睦を図っています。

かつては総会のあとに顧問の酒井真沙先生や印南雲流先生の講話を拝聴した年もありました。昨年は第13回展のみでしたが、多彩な72点の作品を展示しました。その折の懇親会も楽しみの一つで和気藹々のうちに盛り上がり、次の書展への意欲を密かに燃やす時でもありました。

その他那須地区芸術祭や市の文化協会展に



豊道春海先生顕彰碑除幕式

も有志が参加協力をしています。第14回大田原市書道連盟展を11月18日(金)〜20日(日)に那須野が原ハーモニホールで開催します。是非一度県北大田原にもお出かけいただき、ご指導賜りたく思っています。豊道春海先生の顕彰碑も生誕の地で待っています。

月別各地区催し物案内

展覧会名称	会 期	会 場	責任者
第39回高根沢町書道連盟代表選抜書展	H28. 6 . 2 (木)～ 6 . 5 (日)	高根沢町歴史民俗資料館	鈴木源泉
第16回高藝文會書展	H28. 6 .16(木)～ 6 .19(日)	栃木県総合文化センター 第3ギャラリー	鈴木源泉
地域の絆・書の道鈴木源泉書展	H28. 7 . 1 (金)～ 7 . 3 (日)	高根沢町歴史民俗資料館	鈴木源泉
小山市書道連盟展	H28. 7 . 8 (金)～ 7 .10(日)	道の駅思川	倉持玄風
中井史朗生誕100年記念 第51回素心社展	H28. 7 .22(金)～ 7 .25(月)	栃木県総合文化センター 第4ギャラリーA・B・C	澤田 寛
公募第47回東日本書展	H28. 7 .29(金)～ 8 . 1 (月)	栃木県総合文化センター 第3・4ギャラリー	木曾梅邦
第21回さの秀郷まつり子供書道展	H28. 8 . 6 (土)～ 8 . 7 (日)	佐野市文化会館展示室	大竹汎泉
第42回栃木県小中学校教職員書展	H28. 8 .19(金)～ 8 .21(日)	栃木県総合文化センター 第1ギャラリー	関沢 淳
第12回グループ'005'・Wの会『書展』	H28. 8 .25(木)～ 8 .28(日)	栃木県総合文化センター 第1ギャラリー	村田幽香
日光市書道連盟10周年記念会員展	H28. 9 .29(木)～10. 2 (日)	日光市立杉並木公園ギャラリー	皆川桂花
第52回上三川町文化祭書道展	H28.10.14(金)～10.16(日)	上三川町体育センター	高山 正
第12回佐野市民文化祭書道展	H28.10.15(土)～10.16(日)	佐野市文化会館展示室	大竹汎泉
第39回鹿沼市民文化祭書道展	H28.10.28(金)～10.30(日)	鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー	板橋寿鶴
足利市民文化祭書道展	H28.10.29(土)～10.30(日)	足利市民会館	漆原常石
小山市市民文化祭	H28.11.16(水)～11.20(日)	小山市立文化センター	倉持玄風
第14回大田原市書道連盟展	H28.11.18(金)～11.20(日)	那須野が原ハーモニーホール	長嶋石城
第27回さくら市書道連盟展	H28.11.18(金)～11.20(日)	さくら市ミュージアム市民ギャラリー	小森聖子
第37回栃木市文化祭書道展	H28.11.25(金)～11.27(日)	栃木市栃木文化会館	大塚昌峰
師古遊心大浦星齋展 —書と篆刻の風景—	H28.12.21(水)～12.25(日)	栃木県総合文化センター 第4ギャラリー	大浦星齋
第44回鹿沼市民書初展	H29. 1 .11(水)～ 1 .15(日)	鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー	須永茜潮
第44回清明書展	H29. 1 .13(金)～ 1 .15(日)	栃木県総合文化センター 第4ギャラリーA・B・C	中野永峰
第13回茂木町書道連盟会員展	H29. 2 . 3 (金)～ 2 . 9 (木)	ふみの森もてぎ町民ギャラリー こもれび	矢野弓翠
第16回鹿沼市書道連盟展	H29. 3 .10(金)～ 3 .12(日)	鹿沼市民文化センター 多目的ギャラリー	兼目悠久
第10回芳賀町書道連盟会員展	H29. 3 月下旬予定	芳賀町情報館	関口深泉
第13回栃木かな書道展	H29. 4 . 7 (金)～ 4 . 9 (月)	栃木市栃木文化会館	腰塚藤翠

青木 雄山（佐野市）

侍中崔杜鍾張二衛之書筆力驚絕梁武帝
與隱居評書以中郎為筆勢洞達右軍為字勢
雄強又取象於龍威儀震快馬入陣合觀諸論
則古人蓋未有不尚峻勁者矣

日光東照宮四百年式年大揮毫奉納

理事 上村 千 嶂

平成 27 年 11 月 28 日に東照宮四百年式年揮毫会が行われました。前日は

強い風と寒さでしたが、当日は風も無く穏やかな日差しが、荘厳な大杉に囲まれた東照

宮の参道に差し込み、暖かさも感じられ、これから揮毫する緊張感に心地良い天候となりました。

関係者の集合時間 8 時になると、参加理事の先生方が続々と集まり、事務局長から概略説明後、舞台への垂れ幕の貼り付け方や参観椅子を並べたり揮毫用の紙の用意等、直ちに作業を開始し短時間で準備完了となりました。

揮毫の先生は正装して東照宮に参



拝し、愈々特設舞台での揮毫の始まりです。
正装した揮毫者からは緊張感も伝わってきました。

司会は村松太子先生です。宮司様の挨拶で始まり、一番手の揮毫は大浦星齋副会長です。文字は「神気降臨」と「申」（古文字）の大字。二番手は村田幽香副会長の仮名で芭蕉の句を、三番手は松本宜響副会長の空中筆法で「玉響松風」等外 3 点を



長条幅で、最後は赤澤豊会長の大字「壽」でした。各先生の気力十分の揮毫に拍手喝采で、揮毫者再紹介後幕となりました。無事終了に安堵の念を覚えるとともに、50 年に一度のめぐり合わせに参加出来た事に感謝です。奉納の先生方本当にお疲れ様でした。



2015年度

文化奨励賞受賞

塚原秀巖先生



本連盟の常任理事である塚原秀巖先生が栃木県文化協会の栃木県文化奨励賞を受賞されました。幼少より書道に親しみ、現創玄書道会会長の石飛博光先生に師事し書作に励まれ、晴れの受賞に至りました。作品は近代詩文書を中心に漢字・大字書・仮名とオールマイティにこなした軽妙でありながら一本筋の通った書風には他を圧倒するものがあります。アインシュタインや空海の名言・種田山頭火の句・歌手の桑田佳祐さんの歌詞を心に留め置き抒情的に表現するなど文章そのものを大切に書いた書きぶりにも定評があります。また、書の普及という点でも力をいれてお

り、作新学院教諭として長年勤務され、教え子には本連盟にも加盟し堂々たる活躍をしている方も多数いらっしゃると思います。今回の受賞で、その実力と努力が認められ、栃木県書道界の隆盛に拍車がかかるものと確信しています。今回の受賞は本連盟の櫻井敬朔先生・大浦星齋先生・赤澤豊先生・日賀野琢先生・赤澤寧生先生に続く受賞です。おめでとうございます。

「書道文化」

ユネスコ無形文化遺産登録賛
同団体署名運動協力について

昨年、全国書美術振興会、全日本書道連盟、日本書芸院の3団体によつて発足された「日本書道ユネスコ登録推進協議会」(荒船清彦会長)は、統一ロゴマークやスローガンを発表し、全国的な賛同署名運動が展開されている。

ロゴマークは朱色の雅印を思わせる正方形に平仮名の「わ」を白文でその上に大きく「SHO」と「JAPAN」の文字をあしらった。スローガンは「つながる日本の書道文化 ユネスコの無形文化遺産に」。「書道」の筆文字は小野道風から集字された

もの。全国で活動が活発化する中、栃木県内も担当鈴木源泉先生のご尽力により、6月現在、151団体の賛同が得られている。今後も継続的に協力していきたい。

以下に「日本ユネスコ登録推進協議会」からの主旨・名称・団体組織を紹介いたします。

運動の主旨

『日本の書道文化』を国際教育学文化機関(ユネスコ)の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表(代表一覧)」に記載するため。

団体名 日本書道ユネスコ登録推進協議会

公益財団法人全国書美術振興会、公益財団法人全日本書道連盟、公益財団法人日本書芸院の3団体『日本の書道文化』をユネスコの無形文化遺産に登録すべく、その登録推進運動を行う目的で、平成27年4月4日に「日本書道ユネスコ登録推進協議会」を発足した。

団体組織

団体は、事業の最終的な決定機関としての「協議会」、実務的に事業を進めるための立案・検討を行う「実務者会」および「事務局」とで構成される。

〈協議会〉には、特別顧問・顧問・

会長・副会長・総務部長・委員の役員が置かれ、〈実務者会〉は、協議会役員の総務部長を座長として、実務委員・アドバイザー・事務局とで運営される。なお、アドバイザーは、毎日新聞社・読売新聞社・朝日新聞社・産経新聞社・共同通信社からそれぞれ社員が1名が派遣される。〈事務局〉は全国書美術振興会内に設置。

ロゴマーク・スローガン

登録推進運動の象徴となるロゴマーク、一般国民に広く広報を行うためのスローガンおよびポスターを作成。

*スローガン

「つながる日本の書道文化
ユネスコ無形文化遺産に」

*ロゴマーク



余正先生出版祝賀会

副会長 大浦 星 齋

余正先生（西泠印社理事・同篆刻創作室主任）といえ、92年の西泠印社代表としての来県以来、栃木県と中国浙江省との書道友好交流の創始期を実質的な面で支えてきた恩人である。

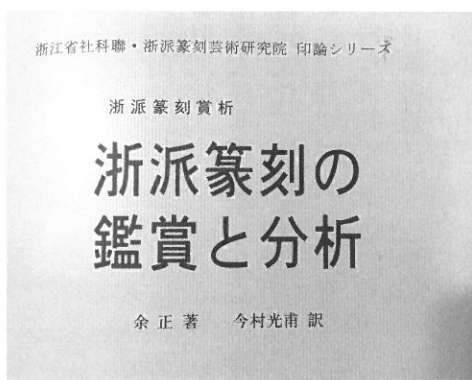
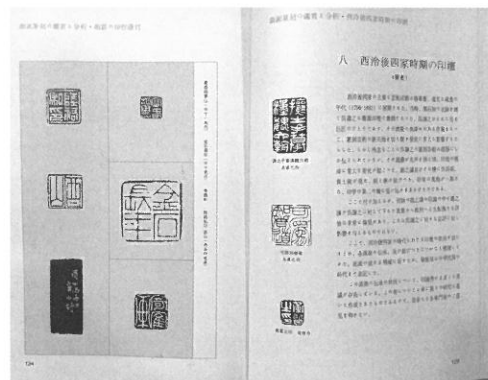
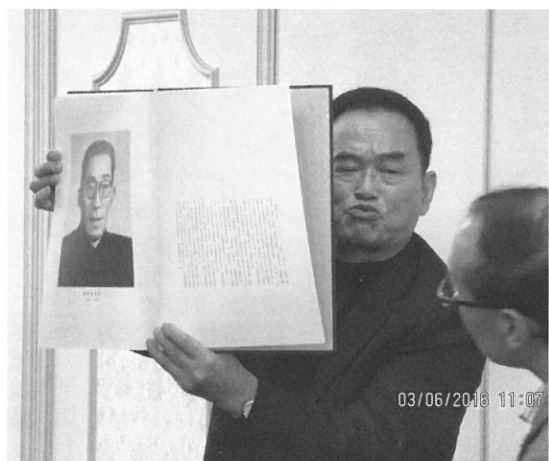
その余正先生著「浙派篆刻の鑑賞と分析」の紹介と講演を兼ねた出版祝賀会が、3月6日、宇都宮市内ホテルニューイタヤにて催された。この本は既に04年に上梓された「浙派篆刻賞析」の日訳版であるが、篆刻史の一大流派である浙派に関するいくつかの争論について新たな提議を加えた印学研究書である。訳文は平易で読みやすく、特に印人の思想を

印款に尋ねて読み解くあたりは類書にも稀で実に興味深い。書にかかわる方には一読をお勧めしたい。

出席者は来賓として下野新聞社から2名、本連盟から赤澤豊会長および副会長3名、常任顧問2名、顧問1名、事務局長を含む常任理事と理事から9名、他通訳2名。西泠印社からは余正先生、桑建華理事、翻訳者の今村光甫氏、出版編輯責任者の侯輝氏、そして台湾篆刻界の重鎮で

ある黄嘗銘先生と傅玉芳先生の26名であった。
これまでに余正先生からは多くのことを教えていただいている。そして今回示された作品制作と理論研究を両立させる姿勢についてもまた、

私たちにとって大きな宿題となった。
最後に、多くの役員さんに著書購入のご協力をいただいたことを書き添えておきます。



平成 28 年度 収支予算書

[収入の部] 9,700,000

(単位:円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.会費	3,600,000	3,675,000	△75,000	5000円×710口,2500円×20口
2.記念事業協賛費	730,000	0	730,000	協賛金1000円×730口
3.会費展	400,000	345,000	55,000	出品料1000円×400名
4.記念会費展	800,000	(仮定額)300,000	500,000	2000円×400名、28女流展は無し
5.連盟基金より	1,300,000	0	1,300,000	創立70周年記念事業費
6.懇親会費	2,300,000	2,200,000	100,000	懇親会集金
7.雑収入その他	100,837	128,949	△28,112	クイズ、入札、利子等
8.前年度繰越金	469,163	639,521	△170,358	前年度繰越金
合 計	9,700,000	7,288,470	2,411,530	

[支出の部] 9,700,000

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.総会費	120,000	150,000	△30,000	会場費等
2.展覧会費	1,400,000	1,120,000	280,000	
会費展	700,000	770,000	△70,000	28年度諸経費、30年女流展会場費等
記念会費展	700,000	(女流展)350,000	350,000	記念会費展諸経費
3.会費展	500,000	660,000	△160,000	
顧問・参与会	30,000	30,000	0	1回、会場費等
正副会長会	50,000	50,000	0	9回、会場費等
常任理事会	50,000	70,000	△20,000	8回、会場費等
理事會	170,000	200,000	△30,000	6回、会場費等
専門部会など	200,000	310,000	△110,000	総務、研修、書展各部会、実行委員会
4.国際書道交流費	20,000	20,000	0	
5.研修費	600,000	370,000	230,000	講師謝金(2回)、会場費等
講演会	400,000	100,000	300,000	講師謝金、会場費等
実技講習会	100,000	150,000	△50,000	
研修旅行	100,000	120,000	△20,000	研修旅行補助
6.地区活動費	1,000	100,000	△99,000	
7.通信・印刷費	1,040,000	1,140,000	△100,000	送料、通信費等
印刷費	600,000	640,000	△40,000	総会資料、会報、各種行事案内等
印刷費	440,000	500,000	△60,000	高校生顕彰、慶弔費、記念事業関係等
8.渉外・運営費	600,000	690,000	△90,000	
9.記念誌関係費	2,300,000	0	2,300,000	創立70周年記念誌、会員名簿等
10.事務局費	690,000	690,000	0	
消耗品費	210,000	210,000	0	事務用品等
事務運営費	480,000	480,000	0	HP管理運営費、事務関係諸費
11.懇親会費	2,300,000	2,300,000	0	懇親会支払
12.予備費	129,000	48,470	80,530	
13.連盟基金へ	0	0	0	
合 計	9,700,000	7,288,470	2,411,530	

収入予算額 9,700,000
支出予算額 9,700,000
差引残額 0

◎連盟基金残高 132,416

平成 27 年度 収支決算書

[収入の部] 7,526,161

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.会費	3,675,000	3,652,500	△22,500	5000円×719口,2500円×23口
2.会費展	345,000	360,000	15,000	1000円×360名
3.会費展	300,000	274,500	△25,500	1500円×183名
4.懇親会費	2,200,000	2,290,000	90,000	各種懇親会(県展ついで等含む)
5.雑収入その他	128,949	309,640	180,691	利子、クイズ、入札、東部宮大講堂正副会長より等
6.前年度繰越金	639,521	639,521	0	前年度繰越金
合 計	7,288,470	7,526,161	237,691	

[支出の部] 7,056,998

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.総会費	150,000	105,768	△44,232	会場費、有坂代、濱台花等
2.展覧会費	1,120,000	971,695	△148,305	
会費展	770,000	772,935	2,935	28年度会場費、27年度諸経費等
女流展	350,000	198,760	△151,240	27年度諸経費等(28年度は無し)
3.会費展	660,000	418,741	△241,259	
顧問・参与会	30,000	26,028	△3,972	1回、会場費等
正副会長会	50,000	35,554	△14,446	10回、会場費等
常任理事会	70,000	21,193	△48,807	9回、会場費等
理事會	200,000	162,776	△37,224	6回、会場費等
専門部会など	310,000	173,190	△136,810	総務、研修、書展各部会、会費費
4.国際書道交流費	20,000	37,496	17,496	通訳費、余正先生土産等
5.研修費	370,000	551,230	181,230	
講演会	100,000	61,060	△38,940	講師謝金、会場費等
実技講習会	150,000	344,374	194,374	講師謝金、交通費、会場費等
研修旅行	120,000	145,796	25,796	研修旅行補助等(宮城県多賀城碑)
6.地区活動費	100,000	29,485	△70,515	各地区役員改選費用
7.通信・印刷費	1,140,000	1,040,782	△99,218	
通信費	640,000	605,058	△34,942	会報、送料、通信費等
印刷費	500,000	435,724	△64,276	集書、総会資料、行事案内等
8.渉外・運営費	690,000	578,911	△111,089	高校生顕彰証書、慶弔費、大津高田関係等
9.事務局費	690,000	669,121	△20,879	
消耗品費	210,000	223,490	13,490	事務用品、ラベル等
事務運営費	480,000	445,631	△34,369	ホームページ管理費、事務関係諸費
10.懇親会費	2,300,000	2,353,769	53,769	懇親会支払
11.予備費	48,470	0	△48,470	
12.連盟基金	0	300,000	300,000	創立70周年記念事業のため繰り入れ
合 計	7,288,470	7,056,998	△231,472	

収入決算額 7,526,161
支出決算額 7,056,998
差引残額 469,163
※ 次年度繰越金 469,163
上記の通り決算報告致します。

会 計 監 査 報 告
栃木県書道連盟会長 赤澤 豊
事務局会長 益子 冨林

平成27年度 栃木県書道連盟 収入支出の決算について、4月4日に
監査した結果、併添、決算書、証憑等適正であることを認めます。
平成28年4月24日

監事 大 塚 浩
監事 佐々木 経 浩

平成 27 年度事業報告

総務部	通常総会	27年4月25日(土)	会場：栃木県総合文化センター・リハーサル室 時間 13:00～14:30 出席者:94名 委任状:291名(会員数の3分の1:254名) 進行：澤田 寛(宇都宮) 議長：大塚昌峰(栃木) 書記：森田桂石(佐野) 川島汀蒲(栃木) 議事録署名人：上村千嶺(足利) 竹澤久子(壬生)
	懇親会	4月25日(土)	会場：ホテルニューイタヤ 受付：17:00 開宴：17:30 会費：6,000円 進行：倉持玄風 参加者：97名
	会報(34号)発行	9月1日(火)	A4版 20頁 1300部 第53回会員展、連盟各種行事 地区だより、地区別催し物案内等
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月8日(日)	会場：ホテルニューイタヤ 参加者：152名 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 (11/8批評会・ワークショップ：村田幽香副会長、文化協会への協力)
研修部	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10月 推薦者申請締切・賞状の準備：11月 審査決定：1/17 結果通知：1/17 表彰状、額発送：2月 申請者：11校14名(昨年11校14名) 表彰者：11校14名
	講演会	4月25日(土)	会場：栃木県総合文化センター・リハーサル室 時間：15:00～16:30 講師：常任顧問 柿沼翠流 先生 演題：「馬鹿の一念」 参加者：190名
	実技講習会(見学のみ)	9月23日(水・祝)	会場：栃木県青年会館(コンセーレ) 14:00～16:30 講師：日本詩文書作家協会理事長 書道芸術院理事長 辻元大雲 先生 ・日本詩文書作家協会副理事長 書燈社理事長 宮本博志 先生 参加者：134名 懇親会17:00～18:30 同会場 会費：4,000円 参加者43名
書展部	研修旅行	10月11日(日)～12日(月、祝) (1泊2日)	官城方面：研修と震災復興支援 見学地：多賀城碑、松島瑞巖寺等 参加者：25名 参加費：32,400円
	第53回会員展	4月24日(金)～27日(月)	会場：栃木県総合文化センター第1・3・4(ABC)ギャラリー 搬入：4月23日(木) 出品料：1,000円 出品点数：368点 規格：仕上がり寸法 A タテ 170cm×ヨコ 55cm以内(縦横自由) B タテ 90cm×ヨコ 90cm以内 C 篆刻 タテ 39cm×ヨコ 30cm 審査員：正副会長(4名) 連盟賞：林 游李、増淵景華、皆川桂花 ギャラリー担当：常任理事4名 参加者：約70名
書展部	第29回女流展	28年1月23日(土)～26日(火)	会場：栃木県総合文化センター 第4ギャラリー(ABC) 1/23(土)搬入・展示 9:00～12:00 出品点数：点 1/24(日)講評会 11:00～12:30 講師：赤澤 豊 会長 参加者：約90名 懇親会 12:45～14:30 会場：ラカンタ 会費：4,000円 参加者：52名
	日光東照宮400年式年大祭記念大揮毫奉納	11月28日(土)	会場：日光東照宮五重塔前 野外特設ステージ 揮毫者：正副会長 4名 スタッフ：役員40名 9:30 正式参拝 10:30～12:30 大揮毫奉納 参観者：約500名 当日とちぎTVニュース放映 連盟HPに会報第1号～第34号まで掲載 応募期間：8月1日～10月31日 応募数：キャッチコピー 1022点 ロゴマーク 49点 最優秀作品各1点(賞金3万円)優秀作品各3点(賞金1万円) 表彰：平成28年度通常総会にて
書展部	HP会報掲載		
	キャッチコピー・ロゴマーク募集		

軸装不可

○各種会議実施記録

会議	顧問参与会	1回	4/19(日)
	正副会長会	10回	5/10(日)8/2(日)11/3(火)11/16(月)12/6(日)12/20(日)1/17(日)2/7(日)3/20(日)4/4(月)
	常任理事会	9回	5/10(日)8/2(日)9/23(水)11/3(火)12/6(日)12/20(日)1/17(日)2/7(日)3/20(日)
	理事会	6回	5/10(日)8/2(日)11/3(火)12/6(日)2/7(日)3/20(日)
	専門部会	17回	総務部 9回、研修部 4回、書展部 4回
	会計監査	1回	4/4(月)
	事務局会議・作業	11回	4/23(木)4/25(土)4/26(日)8/9(日)8/30(日)9/23(水)10/15(木)12/13(日)1/23(土)1/24(日)3/13(日)
	実行委員会	4回	4/27(月)6/7(日)12/20(日)1/26(火)

平成 28 年度事業計画

総務部	通常総会	4月24日(日)	会場：栃木県総合文化センター・第1会議室 13:00～14:30 進行：澤田寛(宇都宮) 議長：神長雪華(矢板) 書記：竹澤久子(壬生) 日賀野琢(宇都宮) 議事録署名人：癸生川天遊(宇都宮) 村松太子(宇都宮)
	懇親会	4月24日(日)	会場：ホテルニューイタヤ 受付：17:00 開宴：17:30 会費：6,000円 進行：倉持玄風
	会報(35号)発行	9月1日(木)	A4版 20頁 1300部 第54回会員展、連盟各種行事、地区だより、地区別催し物案内
	栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい	11月6日(日)	会場：ホテルニューイタヤ 時間：受付15:30 開宴16:00 会費6,000円 (補足) 会期：平成28年10月29日(土)～11月8日(火) (同日批評会・ワークショップ担当：文化協会への協力)
	記念誌発行	1月8日(日)	A4版 132頁 1000部 会員展作品図録合本 10年間の歩み等
	会員名簿発行	12月31日(土)	A5版 表紙：緑色 索引(姓号50音順 I D 順)インデックス
	記念式典	1月8日(日)	会場：ホテル東日本宇都宮 時間：13:00～14:00
	記念祝賀会	1月8日(日)	会場：ホテル東日本宇都宮 時間：17:00～19:00 7000円
研修部	書文化の普及と若手育成のための取り組み	10月中旬～2月	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 県内高等学校への案内送付：10月 推薦者申請締切・賞状の準備：11月 審査決定：1/ 結果通知：1月下旬 表彰状、類発送：2月
	講演会	4月24日(日)	会場：栃木県総合文化センター・第1会議室 時間：15:00～16:30 演題：「70年を振り返る」講師：会長 赤澤 豊 先生
	実技講習会	9月18日(日)	会場：栃木県青年会館(コンセーレ) ジャンル別講習会 講師：常任理事 6名
	研修旅行	10月2日(日)	那須国造碑、烏山和紙会館(手漉き体験) 方面
書展部	記念講演会	1月8日(日)	会場：ホテル東日本宇都宮 時間 14:30～16:00 講師：高木厚人 先生 日展会員、臨池会理事長、大東文化大教授 演題：「かな書の魅力について」ー古典そして現代作品を例にー
	第54回会員展	4月22日(金)～25日(月)	会場：栃木県総合文化センター第1・3・4(ABC)ギャラリー 搬入：4月21日(木) 出品料：1,000円 審査員：正副会長(4名) 連盟賞受賞者3名 顕彰受賞高校生作品展示
	ギャラリートーク	4月24日(日)	会場：第3・4(ABC)ギャラリー 時間：10:00～11:30 担当：常任理事 関口鶴情、癸生川天遊、塚原秀巖、斎藤一吼
書部	創立70周年記念会員展	1月6日(金)～9日(月)	会場：栃木県総合文化センター 全ギャラリー 搬入：1月5日(木) 出品料：2,000円 審査員：正副会長(4名) 連盟記念賞受賞者5名 特別展示(役員遺墨)
	創立70周年記念事業実行委員会	6月5日(日)	記念事業の実施計画検討(記念誌関係、記念グッズ等)

○各種会議実施計画

会議	顧問参与会	1回	4/17(日)
	正副会長会	9回	4/25(月)5/15(日)7/17(日)10/9(日)12/4(日)1/22(日)2/5(日)3/19(日)4/2(日)
	常任理事会	8回	4/25(月)5/15(日)7/17(日)10/9(日)12/4(日)1/22(日)2/5(日)3/19(日)
	理事会	6回	5/15(日)7/17(日)12/4(日)2/5(日)3/19(日)4/9(日)
	専門部会		
	総務部会	8回	5/12(木)7/4(月)7/21(木)8/5(金)8/15(月)8/28(日)10/13(木)3/16(木)
	研修部会	3回	7/3(日)8/7(日)11/20(日)
	書展部会	3回	5/22(日)10/23(日)11/13(日)
	創立70周年記念事業実行委員会	1回	6/5(日)
	会計監査	1回	4/3(月)
事務局	事務局会議・作業	9回	4/23(土)4/25(月)5/22(日)8/28(日)11/5(土)11/6(日)12/4(日)1/8(日)3/16(木)

研修旅行について

平成 28 年 10 月 2 日 (日) に日本三古碑の一つである那須国造碑の見学、烏山和紙の里にて手漉き体験を中心に企画しました。多数のご参加をお待ちしております。

月日	曜日	行 程 表
10/2	(日)	7:00 どんまなかためま(佐野) → 北犬飼コミュニティセンター(鹿沼) 7:50 7:40 8:30 宇都宮駅東口 → 矢板駅 9:40 → 那須国造碑(笠石神社) 11:20 8:20 9:30 10:20 ★見学 12:50 クローバースターキハウス【昼食】 → 和紙の里(福田製紙所)・烏山和紙会館... 14:30 11:50 ★那須烏山の有名店。 13:00 ★はがき漉き体験・見学 眺め最高な高台にある、厳選された素材を使用したレストラン。 15:50 ... 島崎酒造 → 宇都宮駅東口 17:00 14:50 16:50 北犬飼コミュニティセンター(鹿沼) 17:40 → どんまなかためま(佐野) 18:20 17:30

事務局より

事務局長 五江 潤 霊水

◇栃木県書道連盟の素敵なキャッチコピー・ロゴマークが決定しました。
(応募数キャッチコピー10022点、ロゴマーク49点)

【キャッチコピー】京都府 大菅 新作

「書の心
つなげ未来へ
栃木から！」

【ロゴマーク】大阪府 駒井 瞭 作



◇熊本地震災義援金募集にご協力ありがとうございました。

協力者 188名
金額 488,420円

義援金は被災地の復旧復興事業に役立ててもらったため、直接、熊本県に寄付致しました。

◆お知らせ

○平成28年度栃木県各種功労者表彰に参与(小山市) 上野鶴陽氏が受賞されました。
おめでとうございます！

○平成28年6月、先般来県された黄嘗銘先生の個展が台湾彰化市で開催され、本連盟の赤澤豊常任顧問、村田幽香顧問、松本宜響会長、大浦星齋副会長、癸生川天遊副会長の5名が表敬訪問されました。

ご苦労様でした！

○下野新聞連載中の「山本有三の人生と文学」(全38回、平成28年12月末までの火曜日の県南両毛版に掲載)の執筆担当は本連盟会員(栃木市在住) 大塚昌峰(幸一)氏です。(NPO法人山本有三記念会副会長)

是非ご購入ください！

○入会手続きが栃木県書道連盟ホームページから簡単にできます。ご利用ください。

○DM用住所ラベルを連盟後援団体に5千円にて提供しています。(後援申請提出が必要になります。応援申請用紙はホームページからダウンロードできます。)

◆お願い

○年会費が未納のままなっている方はお早めにお願います。

○住所・連絡先など変更事項がある場合は事務局(五江潤)までお知らせください。

お悔やみ

参与・勅使川原素山様(佐野市)
会員・飯塚華陽様(佐野市)
会員・小堀喜泉様(宇都宮市)

事務局にご連絡を頂戴した方のみ掲載いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

○今年度の総会で、赤澤豊会長が退任されました。書道連盟の輝かしい歴史にページを刻まれた先生の数多くのご功績は、今後の私たちの指針とすべきものです。今年度新たに会長に就任しました松本宜響会長以下、新役員一同赤澤前会長のご意向を引き継ぎ、会の活発な運営と書道の普及啓発に努めてまいりたいと思っております。来年は創立70年を迎え、記念式典、記念講演会、記念会員展、記念誌の作成等様々な企画が予定されております。皆様のアイデアやご意見をもとに、有意義な事業を展開したいと思っております。会員皆様の積極的なご参加とご協力を切に願っております。

(M)